

すっかり秋となり、朝晩は冷えるようになりました。風邪をひいている方も増えてきています。しっかり栄養を摂って風邪に負けないからだづくりをしましょう。さて今月号のNST便りですが、9/11のNST学習会についてお伝えします。



## 嚥下造影検査ってどんなことをしているの？

今月のNST学習会は、言語聴覚技師による嚥下評価についての講義でした。嚥下造影検査(videofluoroscopic examination of swallowing : VF)は、造影剤や造影剤を含んだ模擬食品をX線透視化に嚥下させ、ビデオに記録して解析する検査です。目的により診断的検査と治療的検査の2種類があり、前者は嚥下障害の状態、原因の確認を行い、後者は嚥下しやすい方法をリハビリ手技、体位、食品を変えて検討します。

当院での嚥下造影検査には、医師、言語聴覚士、放射線技師、管理栄養士が立ち会い行っています。嚥下造影検査の食事は、水+トロミ水、ゼリー、ヨーグルト、きざみ、一口大、全粥、米飯の7種類からSTが患者に合わせて選定します。これらを食べていく中で、誤嚥の分類(嚥下前・嚥下中・嚥下後)や姿勢(座位・30度あご引き)、一口量、水分トロミ、交互嚥下などによる嚥下のしやすさを評価・検討していきます。

嚥下造影検査の後には医師と言語聴覚士によるVFカンファが行われ、画像を見ながら嚥下機能・代償方法の確認と、経過や臨床の状況とあわせてゴールの設定をしていきます。ゴールは「摂食・嚥下能力のグレード(藤島, 1993)」を元に行っています。VFカンファの結果に基づき評価や訓練を進めていきます。

摂食・嚥下能力のグレード(藤島, 1993)

I 重症 経口不可	1	嚥下困難または不能. 嚥下訓練適応なし
	2	基礎的嚥下訓練のみの適応あり
	3	条件が整えば誤嚥は減り, 摂食訓練が可能
II 中等症 経口と 補助栄養	4	楽しみとしての摂食は可能
	5	一部(1~2食)経口摂取
	6	3食経口摂取プラス補助栄養
III 軽症 経口のみ	7	嚥下食で, 3食とも経口摂取
	8	特別に嚥下しにくい食品を除き, 3食経口摂取
	9	常食の経口摂食可能, 臨床的観察と指導要する
IV 正常	10	正常の摂食嚥下能力

ベッドサイドにはVF結果をもとにした食事設定が張り出されていることがあります。姿勢や一口量、水分のトロミ濃度、交互嚥下について、誤嚥防止のための重要な情報が書かれてるので、水分や食事の提供時によく確認しましょう。



## 来月のNST学習会

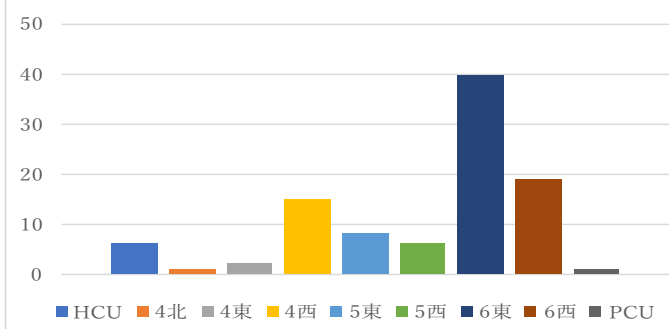
来月のNST学習会は、災害訓練および災害トリアージ学習会と日程が重なるためお休みとします。次回のNST学習会は、12/11(水)17:30より北棟1階患者指導室にて「摂食・嚥下シリーズ②スポンジブラシの使い方」について歯科衛生士の佐藤さんよりお話しいただきます。ぜひみなさまお誘いあわせの上ご参加ください。



## 9月分の実績

	TPN(延べ人数)	EN(延べ人数)	PEG造設数	新規介入数	延べ回診者数
9月	142	501	4	29	100

9月病棟別回診数



TPN・・・中心静脈栄養(高カロリー輸液)  
EN・・・経腸栄養(経鼻・胃ろう等からの経管栄養)

★NST対象患者さんは、毎週の体重測定とSGAの入力をお願いします。

★OHATについて不明点のある方は、NST事務局へご相談ください。

文責：NST専従 管理栄養士 谷岡 恵